

Economic Indicators

定期経済指標レポート

指標名：第3次産業活動指数(7月)
～緩やかな改善傾向に変化はない～

発表日：9月22日(木)
(No. J-118)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 斎藤俊輔
TEL: 03-5221-4547
(単位:%)

		第3次産業活動指数		電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	飲食店・宿泊業	医療・福祉	サービス業
		前期比	前年比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比
04	1-3月	0.0	2.4	1.8	▲3.0	▲0.5	▲0.1	1.0	▲0.2	▲0.6	1.0	▲0.2
	4-6月	1.6	2.5	1.6	3.3	0.7	0.5	2.4	1.6	0.5	0.7	3.0
	7-9月	▲0.2	2.5	0.2	▲3.4	0.5	0.1	▲1.9	0.1	▲0.8	0.9	0.8
	10-12月	0.6	2.0	▲2.4	3.7	▲0.1	▲0.1	0.6	0.6	▲0.1	0.2	1.5
	05	1-3月	1.4	2.2	▲2.1	0.2	1.6	1.8	▲0.3	3.0	1.0	2.3
	4-6月	0.0	1.8	▲0.9	1.3	1.3	0.0	▲1.0	1.1	▲0.7	▲0.5	▲0.1
04	1月	2.0	2.5	2.5	▲4.1	0.8	3.4	3.0	0.2	▲2.5	2.2	2.5
	2月	▲3.1	2.7	▲1.9	▲0.6	▲3.0	▲3.6	▲3.3	▲2.8	0.2	▲3.6	▲4.0
	3月	1.6	2.1	1.5	0.2	2.6	▲0.6	4.6	3.1	1.0	4.2	0.6
	4月	2.0	3.4	▲0.1	2.1	0.2	3.2	1.7	0.4	▲0.2	▲0.6	4.4
	5月	▲1.0	1.0	1.6	▲1.0	▲0.5	▲2.0	▲1.4	0.2	0.5	0.1	▲0.7
	6月	0.6	3.0	0.8	5.7	0.6	1.1	▲0.8	0.3	▲0.9	▲0.6	0.1
	7月	▲0.3	3.4	0.1	▲9.3	1.3	0.9	▲1.7	▲0.2	1.2	0.6	0.4
	8月	0.2	2.6	▲2.0	4.9	▲1.6	▲1.0	1.1	0.1	▲3.1	1.0	0.2
	9月	0.0	1.6	1.3	▲0.4	0.2	▲0.5	▲0.1	▲0.1	1.8	▲0.3	1.6
	10月	0.3	0.5	▲1.4	2.4	0.4	1.2	0.1	▲0.2	▲0.7	▲0.4	▲1.1
	11月	0.3	3.0	▲1.6	▲1.4	0.3	▲0.7	0.8	1.0	▲2.1	0.9	1.9
	12月	0.1	2.4	▲0.6	2.4	▲0.8	0.0	▲1.0	0.3	5.7	▲0.4	0.7
05	1月	2.4	3.1	3.6	▲3.1	0.6	4.6	2.9	▲0.3	0.1	1.9	1.9
	2月	▲1.2	1.5	2.3	1.1	▲1.1	▲2.7	▲1.0	▲0.3	▲0.8	▲2.0	▲0.7
	3月	▲0.9	2.0	▲0.2	▲2.6	2.3	▲2.9	▲0.2	▲1.2	1.3	1.5	▲0.7
	4月	1.7	1.7	▲0.6	1.8	0.5	4.3	▲0.2	1.4	▲0.7	▲0.5	1.2
	5月	▲1.5	1.8	▲2.8	▲1.3	▲1.4	▲2.2	▲0.6	1.0	▲0.7	▲0.3	▲1.8
	6月	0.9	1.9	2.7	5.5	1.9	0.8	0.1	▲0.2	▲0.4	▲0.5	2.0
	7月	▲0.8	1.0	▲5.6	▲6.7	▲0.7	▲0.6	0.2	▲0.5	▲0.5	0.3	▲0.4

(出所) 経済産業省「第3次産業活動指数」

○ 第3次産業活動指数は前月比▲0.8%と2ヵ月ぶりの減少

7月の第3次産業活動指数、全産業活動指数はともに2ヵ月ぶりの前月比低下となった。

7月の第3次産業活動指数は前月比▲0.8%とほぼ市場予想（コンセンサス▲0.6%、レンジ▲1.6～+0.0%）通りの結果となった。内訳をみると、落ち込んだ主な業種は、情報通信業（同▲6.7%）、電気・ガス・熱供給・水道業（同▲5.6%）、卸・小売業（同▲0.6%）、サービス業（同▲0.4%）等である。このうち、情報通信業は前月の上昇の反動減によるもので、電気業（同▲6.9%）は、台風上陸による天候要因等で冷房需要が低下したことが影響した。また、小売業（同▲2.2%）は4-6月期の小型車を中心とした新車投入効果の一巡で自動車小売業（同▲4.6%）の低下などが目立っている。第3次産業活動指数の中核的な存在である卸・小売業やサービス業などが低下したものの、今月マイナスに寄与した主な業種に関しては前月の反動減や一時的要因による落ち込みであり、基調を示すものではないだろう。先行きに関しては、雇用・所得環境の改善や安定的に推移する消費マインドを背景に底堅い個人消費が第3次産業活動指数を下支えすると予想される。単月では低下したもの、趨勢としてみれば、緩やかな改善傾向が続いているとの判断に変わりはない。

○ 鉱工業生産指数も低下に寄与し、全産業活動指数も減少

同時に公表された7月の全産業活動指数も前月比▲0.8%（コンセンサス▲0.6%、レンジ▲1.3%～▲0.1%）と2ヵ月ぶりに低下した。内訳をみると、第3次産業活動指数（寄与度▲0.5%ポイント）に加え、鉱工業生産指数（同▲0.2%ポイント）も低下に寄与している。もっとも、予測指数通りとなれば、7～9月期の鉱工業生産は前期比+1.2%の増加となることに加え、民間建設活動等も引き続き底堅い。また、第3次産業活動指数も前述の通り、緩やかな改善傾向が続いていることから全産業活動指数がこのまま落ち込んでいく可能性は低いといえよう。

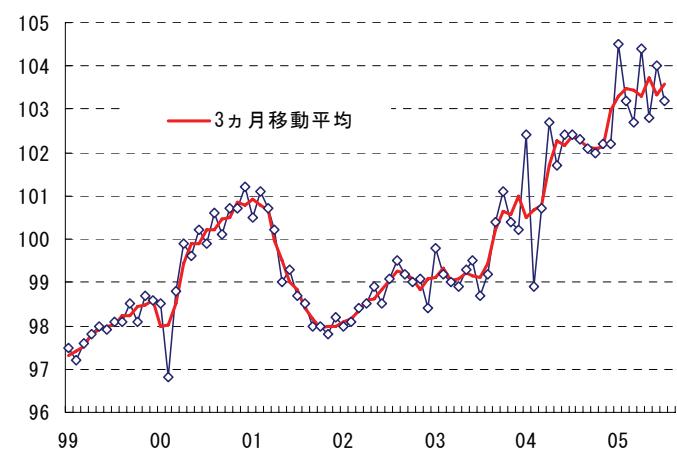
○ 全産業活動指数を7月の対4～6月期比でみると▲0.5%

7～9月期全産業活動指数はGDPと似た動きをすることから、供給側からみたGDPとも呼ばれることがある。全産業活動指数を7月の対4～6月期比でみると▲0.5%となっている。7～9月期としてはやや低調なスタートとなったものの、個人消費が底堅く推移していること、8、9月の生産予測指数がともに前月比+2.3%と高めであること等を勘案すれば、基調的には緩やかな改善傾向が続く見込みである。

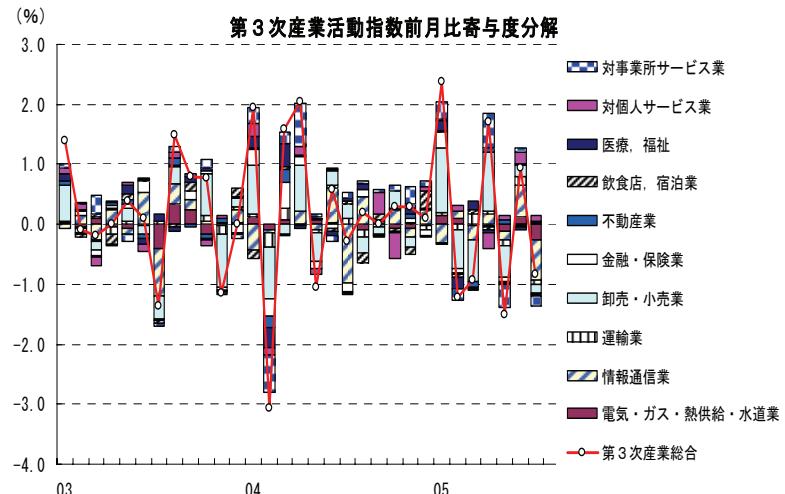
第3次産業活動指数（季調値）



全産業活動指数（季調値）



第3次産業活動指数前月比寄与度分解



全産業活動指数前月比寄与度分解

